



# つもりっこ

令和6年11月7日  
第14号  
益城町立津森小学校

## 人権月間～キラリ みんな輝く 笑顔あふれる学校～

本校では、11月を「人権月間」として「人権」を自分たちの身近な問題と結びつけながら、子どもたちが「人権」や「差別」の問題をより深く考え、お互いの「違い」や「よさ」を認め合う取組をしているところです。

人権月間に限らず、人権教育は学校の全教育活動を通じて行われるものであり、「自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動ができる子ども」の育成を目指しています。そのためには、まずは「自分を大切にできること」が重要です。自分を大切にできるからこそ、「他者も大切にすること」ができます。自分を大切にすることができるには、「自分は役立っている」「自分は価値ある存在だ」などの自尊感情を育む事が必要です。残念ながら、児童アンケートの「自分のよいところが言えますか」の項目に対して肯定的に回答した児童は65%にとどまっています。

自尊感情は、周りの人々から認められたり成功体験を積んだりすることで高まります。そこで、津森小では、お互いのよさを認め合う「キラリ」を推進しています。学校生活のすべての場面でお互いのよさを見つけ、認め合い、高め合うことに取り組んでいます。

また、この小学校の時期に子ども達の自尊感情を育み、高めるためには、ご家庭の愛情が何より大切です。「あなたは、家族にとってかけがえのない大切な存在」というメッセージを言葉や行動で絶えずお子さんに伝えていただければと思います。

ご家庭と学校が同じ方向を向いた両輪となって、子ども達を育て、しっかりと見守っていきましょう。



## 「いのちの日」学校集会

11月5日は、津森小学校にとって、75年前の日奈久沖遭難事故により亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、命の尊さや大切さをあらためて考える「いのちの日」です。

今年も「いのちの日学校集会」前に行われた辻が峰での慰霊献花式には、5、6年生の子ども達が参列して、黙祷と献花を捧げました。

その後の集会では、日奈久沖遭難当時の同窓生の方から遭難時の様子、日奈久の方々の献身的な救助の様子などのお話をいただきました。子ども達にとって、かけがえのない命を大切にして、人としての心の豊かさや思いやりについて考える貴重な機会となりました。

